

第3回総合計画策定委員会グループ討議での意見

● 変わるイノベーション宣言について

グループ1

委員名	内容	部局長の対応
近藤委員	長岡市がサプライチェーンの変化を捉えられるかどうかはポイント。次世代産業の成長などに力を入れていこうというのは前向きに感じられる。県の総合計画の取組みにも掲載されている。 技術や制度だけではなく、人を育てる仕組みを支える必要がある。大企業であったり農業の担い手、新しいことに挑戦する現場は孤立しない、短いスパンではなく、長期にわたって継続していけるように金融機関や教育機関等が連携して支援していく体制を強化する必要がある。 ものづくりを世界に向けてという中には多言語対応や自治体によるプロモーションや地域のブランド戦略が重要になってくる。	—
近藤委員	ものづくりを強化するというより、地域を愛せるような方向で検討することも必要。	「つくる」（製造業）だけではなく、「食べる」等も必要。産業として人材育成を行い、付加価値を付けることは重要。
西片委員	記載している内容は良い。我々のような小さい企業でも海外との取引が増える中で、今後は欧州等の雇用形態等を含めた規制・認定を通過する必要がある。安心して長岡市で商売ができる仕組みができると良い。世界で戦える基準づくりが長岡でできると良い。 農業で若い人が来ないとならない。仮に農業で生活できてもその他の基本的な社会インフラがないと生活できない。	—
広川委員	内容的には理解できる。 文章でイノベーション宣言の内容について、「次世代産業」というのはどういった産業をイメージされているのか。	これからの成長分野。具体的には、電気自動車など。ものづくりのやり方から根本的に変わるような、生活の基盤となるようなものを指している。長岡市としては、パワーエレクトロニクスやバイオマス等、長岡市に研究者が多かったり、他者と違う集積があるような産業をイメージしている。ただし、10年スパンでどのような産業が出てくるかの予想は難しい。表現方法は悩んでいる。

広川委員	長岡市の産業は成長分野が期待できる分野もある一方で、中小零細企業も多くある。次世代産業的な企業の上に焦点を当てると、その他力のない企業は退場しろということなのかということも感じられる。生産性の低い効率性の低い企業全体の底上げの観点ももたないと一部だけに焦点が当たっているようにみえる。 サプライチェーンの構造的変化をチャンスに！にかかる言葉として「次世代産業」は飛躍している。	守りと攻め、違う文脈で記載した方が良いと理解した。再度検討する。
広川委員	「新しい農業の実現」とあるが、基本目標では農林水産業という表現をしている。農業だけに言及することでもいいのか。水産業などは記載しないのか。	農業・水産業・林業について、産業としての観点で成長できる分野はやはり農業であると思う。あえて農業という記載をしている。産業としての観点で記載している。誤解を生むようであればまた検討したい。輸出額で考えると新潟県において、錦鯉はコメの輸出額の倍程度の輸出額がある。水産業も明記させたいと思う。
広川委員	「訪日客」を倍増との記載があるが、長岡市の計画の中で「訪日客」の表現がふさわしいのか。訪日客は日本全体のことを言っているので表現が広すぎると考える。 また、「倍増」と記載してよいのか。KPI にする必要があるのでは。	分科会にて確認
近藤委員	世界と戦える基準づくり、というのは産業に関係なく強みになるのではないか。	企業と農業の融合という観点でも「イノベーション宣言」の修正ができると良い。

グループ2

委員名	内容	部局長の対応
大原委員	サプライチェーンのイメージがわからないがどういうことなのか。 もっとはっきりとイノベーションについて書いたらどうか	産業出荷額 7200 億円。少子高齢化による労働力の不足。イノベーションを起こさないと進めない。変化が重要。 検討する
高野委員	サプライチェーンがわかりにくい。市民が見るということを考えるとわかりやすく伝えないといけない。一般市民にも分かるような言葉で。枕詞は要らないのでは。	おっしゃる通り。検討する
坂田委員	わかりやすい言葉を使うことが大事。 「社会の構造変化」とか。人それぞれの捉え方が変わってくることでもいいと思う。	—
大原委員	「魅力的な企業の創出で住み続け、帰ってきたいくなる長岡へ」は、サプライチェーンと同じことが書いてある。1つにまとめてもいいのでは。	検討する
外山委員	多様は働き方が考えられる女性のことも考えると、世界水準としなくてもいいのではないか。 もっと多様なレベル（例えば趣味レベル）の業種を含んだ表現でもいいと思う。	ニッチな企業をとっても世界的ということも含んでいる。

高野委員	住みたい、帰ってきたいというのが先に来た方がいいのでは。内容はいいと思う。	—
坂田委員	住みたいだけでいいのでは。 長岡に住んだことのない人も、戻ってきたい人も含まれる 今の言い方だと長岡で生まれた人限定になってしまうのでは。	長岡のことを知らずに長岡に来たという人もいる。 長岡生まれじゃない人も含まれるように
大原委員	魅力的な企業の創出には、外からの誘致は入っていると思うが起業創業も入っている？	入っている スタートアップ、起業創業、も入っている 再編も含めて
高野委員 外山委員 大原委員	ランプ会。長岡市民でもわからない人がいる。 唐突に出てきている。変わる宣言とのつながり（オープンイノベーション、みんなで考えることが大事だということを想起させるように）を説明する補足文章が必要。	産業界でいう礎みたいなもの。 検討する

グループ3

委員名	内容	部局長の対応
大島委員	「変わるイノベーション宣言」だと、「変わる」と「イノベーション」は意味が重なっている。	いい案はある？ →「変わるれ！宣言」とか。シンプルでいい
大島委員	・9割満足と書かなくても。100%なら目指すものとしてありだが。1割捨てる前提？ ・移住者倍増と書かなくても。カットしてもよい。 ・平和の尊さの発信は、市内の活動だけでなく市外に向けても。 これからやらなきゃいけないことを。これまでやったこと、やっていることではなく。	—
山田光枝委員	キャッチフレーズ「変わるれ！わかるれ！長岡。」 市民も理解できるように、内外に届くように。現状は市民が市政にあまり興味ない。	「わかるれ」の主体をどこ（誰）におくか。 主語がぼやける可能性もあるが、必要性は理解できる。
ガーヴィー委員	英語ではイノベーションは昔を捨てて新しいことを。長岡が昔からを大事にするのであれば、「イノベーション」を変えて（変革）いくような意味にする？	—
山田光枝委員	なぜ9割？根拠は？ 現状を示したうえで、目指す数値を設定できるのでは。	現実的な数字があったほうがいいという話もあったので9割と書いてみた。書かなくていいならむしろカットしたい。 →「大満足」でもいいんじゃない。 現状、県の満足度調査では23%くらい。市として観光全体の満足度調査は無いので、今年の夏頃に調査して初期値を得たい。
佐々木委員	変わるイノベーション宣言が意気込みを表わしたものであれば、数値的なのはKPIで良いのでは。	—

佐々木委員	・(多くのコンテンツがあるが) 市民がその良さを理解しているのか。花火については誇り、プライドを感じるが。それ以外はあまり聞かない。まず市民が良さに気づかないと。 ・観光はネットワーク（広域連携）が必要。長岡市単独ではなく、新潟市、長野県とかと連携して。 ・インバウンド多い都市の事例を参考にしたらよい。 ・観光分野における分かっているマイナス部分、例えば花火であれば交通とトイレにテコ入れする。	—
-------	---	---

グループ4

委員名	内容	部局長の対応
田中委員 渡辺委員	イノベーションが変わるだから重なっているのでは？ 頭痛が痛いような。	—
草間委員	自助・共生が大事といわれているが、人とお金を割り振ってもらわないと難しい。 身寄りのない人などが暮らしていくには民生委員が大量に必要。 若者が夢と希望をもってもらうには就職口とお金があるまちづくりが必要。 2050年には高齢化がより加速する時代がくる。今後10年はその準備をしていかなければならない。	—
田中委員	基本目標の説明文に「アオーレ長岡を拠点に」と書いてあるが、支所地域が含まれないため良く思わない人もいるのでは。 中心部とその他を分断するように思われる。	—
渡辺委員	自分らしく暮らせるのは良い 一人暮らしの高齢者は漠然とした不安の声が多かった。 変わるイノベーション宣言3つ目の高齢になっても安心して生活できるという声倍増はよい。	—
草間委員	健康管理・かかれる医療が近隣にあること、終末期医療があるか、ACPが考えられる社会にしていく、 身寄りのない人などを支える福祉制度の充実が大切。	—
アデリン委員	病院いく回数が多い人に優しい社会（こども・高齢者） 救急車ほどではないが、健康相談など夜にできるとよい。	—
田中委員	変わるイノベーション宣言1つ目の「人権」いるのか。 憲法で人権があるからわざわざ言わなくてもいいのでは。	—

グループ5

委員名	内容	部局長の対応
山田修委員	変わるイノベーション宣言について、対象は子どもたちという印象を受けた。政策の「あらゆる年代における学び・体験・交流の充実による人材育成」が感じられない。	確かにわかりづらい。検討していく。 まちキャンもあるので多様な学びという認識である。ただ、人口減少の中でこれからを担う「若者」を強調している。 生涯学習が浮いてしまっている。
黒崎委員	3つの宣言の繋がりが生涯学習になると思う。生涯学習の面での3つの宣言の串刺しになる理念があると良い。 生涯学習に限定をするわけではなく、3つの部局の基本的な理念、目指す方向が明確に共有されていることで、同じベクトルで3つの部局が進むことでより効果が上がると考えます。	—
石坂委員	変わるイノベーション宣言にある、日本一の理由を教えてほしい。 質の高い教育は個別最適性が大切。 今の何を変えるのかという認識なのが見えてこない。 日本一を目指すために何を変えるのか。	変わるれ！長岡、イノベーション先進都市の意気込みとして日本一とした。 教育大綱を成し遂げれば日本一になるのではないかと思っている。
黒崎委員	委員から意見をどんどん出して変わってもらえばいいのではないか。 例えば教員の質。教員の質が上がると教育の質に直結する。教員がポジティブに誇りを感じられるようにしていかなければいけないのではないか。教員は楽しさ、やりがいも感じているが発信をしていない。教員の質の観点からも教員をやりたい人が増えないと。保護者や子どもたちからの先生への感謝の気持ちが社会に伝わる機会があるとよい。保育園や幼稚園も同様かと思う。	教育大綱の5つ目の柱には含まれている。 教育振興基本計画でもその点を練っている。 教員の質の向上は重要なポイントだと思っている。
石坂委員	やはり変わる部分が読み取れないといけないと思う。 教員の質の向上が教育の質の向上につながることについては同意。	—
山田修委員	記載されている内容はこれまでもやってきていることだと思う。「これをやります」を言えるとよい。	—
黒崎委員	住む場所を選ぶ人たちの観点の一つが教育だと思う。選ぶ理由として、「長岡市の教育が「こうだから」長岡市を選ぶ」、の「こうだから」があるとよい。	—
石坂委員	・誰に選ばれたいのか。極端な例だが、子どもを医者にしたい親に選ばれたいのか、とか。 ・市職員の指針、バイブルにするのであればもう少し踏み込んで書くべきなのではないか。	総合計画は宣言である。どこまで細かく書くかが難しい。
黒崎委員	計画に記載するレベルより細かい話も含めて意見させてもらうが、計画に反映させる、反映させないは市に任せる。	—

山岸委員	・教育はどうしても評価がついてしまう。勉強が苦手で自己肯定感が下がってしまった経験のある親が子どもに期待という名の呪いをかけてしまうなど、漠然とした不安の中で子育てをしている保護者が多い。 ・熱中感などの素晴らしい取組があるが、その前に「あなたはあなたのままでいい」というメッセージがあると良い。 ・「長岡出身です」と胸を張って言える子どもに育てたい。	—
石坂委員	「～の教育といえば長岡」があれば飛びつきたくなると思うがそれは親の話。子どもがどう生きていきたいと思うかが大事だと思う。	—
黒崎委員	教育はいろいろなものさしがある。 青葉台地域でCS会議では、「社会性を育てるには」というテーマを2、3年ずっとやっている。社会参加をして子どもたちが主体性を身に付けて育っていくことを想定している。例えば祭りに企画段階から中学生を入れたり、防災計画の策定に中学生を入れたり。活動の中で地域の人に認められる経験を通して、子どもも自己肯定感を低めずにいられると思う。 トップにミライエがあって、その先の地域のもつ教育力も大事になる。その繋ぎがまだできていないかと思う。	まず、変わる宣言を作れという宿題があった。 どう変わるべきなのかという大きなビジョンが示されていない中で宣言を作っている。これまでの教育から変わらなければいけないという意識はあまりない。 10年後どのような姿でありたいか、という思いで作っている。 宣言に出てくる「日本一」は何かと比べているわけではなく、KPIでもない。 今できていないとことをできるように、また、一人ひとりが学びに熱中できるようになる、ということが一番言いたい。
黒崎委員	「学び」の捉え。勉強、知識、スキル、そして社会参加も学び。 学習者である子どもは社会参加を「学び」と認識していないと思う。経験はしたけど学んだとは思っていない。 「学び」の定義がどこかに記載されているとよいかも。	イノベーション宣言の中で入れるということでしょうか。 学びは色々ある。「多様な学び」とする程度でしょうか。
山岸委員	経験も「学び」だということに同意する。	—
石坂委員	みんなが勉強に熱中しているわけではないので、個別性のニュアンスがあった方がよい。	基本目標の説明文から読み取れないか。
黒崎委員	「新しい学び」はミライエので学びのイメージ。 学びは勉強だけではない、社会生活の中で体験することで学ぶこともたくさんある。それも合わせて学びであることを市民がどこまで意識しているのか？そのことを、市として明確に言うことは難しいのか？極端なことを言えば「勉強できなくてもいい」とか それを市で言うことが「変わる」ということなのではないか。それを市が言うことでのメリットもあるのではないか。	預からせていただきます。

グループ 6

委員名	内容	部局長の対応
樋口委員	3つの変わるイノベーション宣言の想いはとても納得できる。一方で、「公共交通の維持」と「D Xの活用」については、この宣言と、政策及び主な取組みとの関係性が読み取りにくい。例えば、公共交通は、主な取組みのコンパクトシティ推進の項目の中に少し記載されているが、埋もれているように感じる。せっかく変わるイノベーション宣言として前面に打ち出しているのに、7つの政策にもはっきり記載した方がわかりやすくてよい。もしくは、コンパクトシティ推進のために、公共交通がそれを支えるという関係性なのであれば、逆に、変わる宣言には公共交通確保ではなくコンパクトシティ推進と記載するなど検討した方がよい。インフラにおけるD X活用も同様。重きを置くものを宣言に記載した方がわかりやすい。	—
樋口委員	自主防災組織の活動率はわかりやすい。報償費の申請数で活動数としているようだが、報償費を申請しなくても活動している組織あると思われるが、その把握の方法はあるか。	全ての自主防災会に通知して活動報告をあげてもらっている。活動していれば報償費を支払う。活動の実績を確認した後に報償費を支払っているのに、報償費の申請数と活動団体数はほぼイコールになると思っている。
樋口委員	地域防災活動の内容はどのようなものか	自主防災会によって様々。例えば、寺泊地域では津波の避難訓練。他には市の防災訓練にあわせて、6月に情報伝達訓練を実施したり、8月の市全域の防災訓練に参加したり、日程にあわないところは独自で実施しているところもある。防災資機材の確認などもあり様々。どのような活動をしたら良いかわからないところへは、中越市民防災安全士会などによる出前講座で支援している。

樋口委員	・活動率については、防災訓練だと仮に1世帯でも参加すれば活動したとする「やるかやらないかのゼロイチ」の議論になるが、地域全体の防災意識が上がるのが大事。他都市では「ながら防災」に取り組んでいる。防災訓練だけではなく、町内の納涼会にあわせて、点呼の訓練などコミュニケーションの機会としている例もある。活動率を上げると同時に、どんな活動なのかも大切なので、地域の安全安心という面では防災訓練だけではない取り組みもあるように思う。 ・長岡はマンションが多く、水害時に垂直避難をしてそのまま建物に残る人も多いと思う。大都市圏では「マンション防災」といってマンション単位で防災組織をつくり取り組んでいるところもある。活動の報告があればということだが、そういったところからは報告はあがってこないと思われるので、普通の町内会とは別に独自にプッシュ型で把握していった方がいい。川崎市が「備える川崎」というパンフレットを作っているが、集合住宅向けのページを作成している。長岡は自主管理のマンションも多くあるので対応も必要だと思う。	洪水時はマンションの人は動かなくてよい場合もあるので、マンションという独自に単位で組織して活動することも歓迎。マンション住まいの方も多くいるので参考にしたい。
佐野委員	・公共交通について「自動運転などの技術革新」とあるが、自動運転が実現できれば公共交通の問題はある程度解決する。それまでのことに関して取り組みを進めた方がいい。 ・「自動運転などの技術革新や公助・互助・共助など様々な方法を組み合わせ」とあるが、具体的な取り組みも記載した方がよい。意図は理解できるが、一般の人が見たときに理解できるかどうか。 ・インフラ維持において人材が足りない状況をIT技術で高度化・効率化していこうということだが、市内には4大学1高専と工科大学もあるので、人材の育成という取り組みも明記していただきたい。	・自動運転は担い手不足の解消につながる一方で、利用者が増えるかという問題もある。現在の路線バス、コミュニティバス、デマンドタクシー以外に、今後は地域の助け合いにも踏み込まないと維持できないという思いで記載した。 ・インフラ維持管理の人材育成についての例として、長岡高専と連携してタブレットを使った橋梁の簡易点検を担ってもらおうという取り組みを試験的に始めたところ。高等教育機関と連携して、職員や技術者の人材育成に取り組んでいかなくてはと思っている。そういったことも読み取れるような工夫を検討したい。

勝身委員	・本気でイノベーションと記載するのであれば、今あることの改善ではなく、今の状態ではないくらいのことを書かなくてはならない。防災組織については人がいることありき、人材が減っていかないという前提で記載されているが、本当に人材がいなくなる前提で、今人に頼っている部分を完全に自動化やD X化するようなことを考えなくてはならない。 ・地域交通の関係ではスマホ配車サービスの取り組みを提案したい。公共交通やタクシーではなく、海外のような誰もが運ぶ人になれるような取り組みが必要。実際学生の間では、学生同士で車を持っている人が持っていない人を載せてあげるような配車サービスの取り組みが見られる。 ・長岡の物理的な広さを考えると、公共交通網は骨のように分布しており全域を網羅できないため、公共交通がない部分は自由度が効くものにシフトする必要がある。今あるものを維持しつつ進めるのか、新たな考え方を入れていくのかで政策の方向性は違ってくる。 ・ペットボトルの収集において、つぶして回収できるようになったことで回収効率が上がると思うが、こうした取り組みに加え、今後技術革新でどうしていくことにおいては、防災に関することも含めて、大学や高専の人材を活用した研究、研究費があるとよい。	イノベーションに関する部分の表現の仕方はご意見を踏まえて考えていきたい。
原委員	・自主防災組織は地域住民による活動だと思うが、2～3人で結成することも可能なのか。 ・自主防災組織のカバー率という考え方もある。自主防災組織の活動がどれくらいの世帯に影響しているかを示すもの。成果指標に入れないにしても参考指標にしてもいいかもしれない。中越地震のように大きな地震だけでなく、近年はゲリラ豪雨など災害も多様化しているので、活動している人だけではなくて、地域全体で自主防災をしようという意識、危機意識を高めていくことが必要だと思う。 ・愛知県では多くの人が南海トラフ地震に危機意識を強く持っているが、東日本大震災を知らない子どもが今後増えていく。小学生には歴史の教科書に載っている出来事のひとつくらいに捉えている子もいるようで、今後危機意識が低くなっていくことが心配。	ある程度地域をカバーする組織だが、大切なのは隣近所の助け合いだと思っている。そういった意味で、規模は問題ではなく2～3人でも近い関係性の中で助け合って避難するような活動をする方が、活動のない組織よりよほど良い。どの程度の範囲で組織すべきかという点は良い意見をいただいたので研究したい。
佐野委員	「良好な除雪体制」とあるが、良好であることはそのとおりと思うが、「効率的」の方が良い。効率的とは、全ての道路を除雪するわけではなく、必要に応じてしっかり除雪するところとそうでないところがある、メリハリをつけるという意味を含んでいる。	人口減少の中で除雪延長は伸びる一方で、地域の集落の除雪レベルをどうしたらいいのかということを日頃から考えながら除雪作業にあたっている。まさに、効率的という表現は、同じ目的であるので表現の仕方は検討したい。

勝身委員 樋口委員	- 除雪を行った後の道路の傷みに伴って、細かい粒子が川に流れることでゆくゆくは環境汚染につながる恐れがある。イノベーションを起こすというなら、そもそも雪が積もらない道路を作るべき。降ったら除雪して道路を直すということを繰り返すのではなく、修復しなくてもいいような除雪ができるようにすべき。特に国道8号は長岡の中でもメインの道路だと思う。 - 長岡市の除雪延長は全市では相当な距離であり、それを一晩で行うのは大変なこと。 - 札幌ではロードヒーティングという雪の積もらない凍結しない道路づくりをしているが、大きな経費がかかっている。	- 様々課題はあるが、イノベーションという想いで踏み込んで変わっていかないと解決しない問題である。大学と連携して効果的な除雪方法が見いだせないかとも思っている。 - 幹線道路だけは無雪の道路にするということも考えられるが、現時点では技術的に消雪パイプが一番に選択肢として挙がってくる。 - 地下水の問題もあるが、効率よく雪を消すことができるシステムを研究していきたいと考えている。
樋口委員	- 基本目標にある「雪に強く」なるためにイノベーションを起こすなら、これまでの延長線上だと捉えられないように、従前の技術だけではない何かに取り組んでほしい。雪についての記載が「変わるイノベーション宣言」に入っていないので、目標→宣言→政策→施策が合うように検討してほしい。 「環境に優しい循環型社会」は、この基本目標において他の取組みと親和性がないようにも思える。「誰にも優しく寄り添う共生社会」でもいいと思うが、インフラとしての環境ということなのか。	6つの基本目標のどこの分野に入れようと考えたときに、ごみ収集や再生エネルギー、省エネの取組みが関係するという整理で「安全安心に暮らせるまち」というカテゴリに入った。標題にはないが、基本計画に取組みを記載している。

● 政策の目指す姿と主な取組み

グループ1

委員名	内容	部局長の対応
西片委員 近藤委員	世界と戦ううえでの認定や認証を長岡市として金融機関等と連携して定着させていくことが必要	以前は効果的な施策を打てなかったため、見極めている。話を聞いて重要だと認識。どう計画に反映できるか検討
広川委員	政策の「オール長岡」とはなにか。産学官金の連携という意味合いでいいか。産業振興という意味では世界基準もいいが、地元の中小企業の底上げを念頭に入れつつ取り組む必要があると思う。人手不足の解消する手段としてDXの推進は重要である。さらに注力していく必要がある。産業全体の底上げという観点でDX推進は重要な観点である。	中小企業支援と同様の観点という理解。

西片委員	4 大学 1 高専における連携で成果は出ているのか。あまり活用の魅力を感じられない。 信州大学は繊維ではトップクラスであり、企業と協力してラボのような取り組みを行っていた。	ハードルは高い。大学も同様の認識を持っている。近年は産学連携に対するコーディネーターなどの人員も配置している。中には共同研究等の事例もあるが、仕組み自体が認知されていない状況。市からディスカッションしていく必要がある。 国からのミッションとして、地場産業との連携が求められている。ただし、教育機関としては研究等に注力したい意向がある。
近藤委員	良い施策を作っても企業が受け入れないと意味がない。長岡市が 10 年先を見据えて変化を起こそうとしている中で変化に後ろ向きな考えの中小企業や町内会などは地域全体の成長の足かせになると思う。最後は行政が何とかしてくれる、という雰囲気がある。	—
広川委員	・中小零細企業は自力で動けない。事業転換や生産性の向上に取り組んでもらえるよう金融機関は活動している。 ・大企業の求める技術レベルにないから受注が取れない。必要な設備投資や人材育成をするなど各企業が自助努力をするべき。	—
近藤委員	中小零細企業自体が悪いわけではなく、言い訳として利用している姿勢が良くない。何もしないことは最大のリスク。特定の企業のみが努力をしても良くならない。	—
近藤委員	具体的な施策として若手・女性経営者の活躍・育成が必要。	若手経営者との交流・連携が事業承継等に繋がるようなニュアンスがあると良いと思う。
西片委員	取引先が変わったことによって取引がかなりスムーズになった。地域にかかわらず後継者のいる企業と取引する。 企業の吸収もしている。	—
広川委員	・「いきいきと働く」産業集積の創造というのは、雇用環境をどうするかの話と産業集積の話が混同している。産業集積している地区で働く人に生き生きと働いてもらうという趣旨であれば理解できるが、雇用環境については雇用環境の改善について話しており、産業集積は別の話だろう。両方とも重要な話であるため、つなぎ方を変えた方が良い。 ・NAGAOKA ワーカー自体は推進すればよいと思う。一方で、我々は兼業・副業を推進している。そういった観点での記載があっても良いだろう。	—
近藤委員	文章の中身よりも、実行のために必要な取り組みという観点で考えた。空き家を更地にして家庭菜園にして農業の次世代育成をしてはどうか。すぐに担い手になるわけではないが、そのきっかけづくりができるのでは。	きっかけづくりは非常に重要。市内でも多く存在するが、半分以上空いてしまっている。空き家対策と観点は異なるが、工作放棄地から農業に携わってもらいたいと思っている。

広川委員	耕作放棄地を何とかしなければならないという意味では大規模化を具体的にどうやって進めていくか考えなければいけない。採算が取れなければだれもやらない。 具体的な施策の中に盛り込む必要がある。 収入を引き上げていくことの記載があるといい。	自然に大規模化になっていく。地域計画も作ったが担い手不足は深刻
西片委員	農業者は何年後にどうなる見込みか	小規模農家は半減する見込み
広川委員	政策の「人材の還流による新たな価値の創造」記載の意味が分からない。東京からのUターンという意味かと思ったが内容は異なる。新たな価値の定義も曖昧。何をやろうとしているテーマなのかよくわからない。「外部人材との連携」と「人材の還流」とはアンマッチで成立していないのでは。主な取組とも連動していない。実証プロジェクトの支援を行う上で外部人材を活用する、という意味か。	目的と記載内容を整理する。
広川委員	長岡市単独で観光振興ができるのか。新潟県全体（広域的な観点）で考えないと難しいテーマだと思う。記載内容自体は問題ないと思う。従来からやってきたことでもある。DMO も設立に向けて頑張りたい。	「現状」の記載について、もう少しブラッシュアップしても良いかと思う。

グループ2

委員名	内容	部局長の対応
大原委員	施策の柱「高度外国人材等のインターンシップ支援」について、インターンシップ支援は最終手段ではない。雇用を目指すべきでは。	変更する。
坂田委員	地元大学を使っていない…もっと使うべき	—
坂田委員	DX を推進するためには、道具だけあっても使えない人がいる。 いろいろなところを見て危機意識を持つことが重要	—
外山委員	4 大学 1 高専の人たちがチームになって学ぶことが大事。 結果として市外に出て、長岡を好きでいてくれたら長岡を中心にヒトカネモノが回ると思う。 KPI「産学連携事業実施件数」には、技術高度化事業だけでなく次世代人財育成事業も含めることに留意いただきたい。	産学連携により何が生み出されたかが大事だとは思うが、KPI としては合わない。
高野委員	DX はあくまでも手段。お金をかけたのに失敗したという話も聞いている。 企業のマインドセットをしないまま DX 化を進めてもうまくいかな。まずはマインドセットをするメニューを入れられないか。	中小零細にはマインドセットが必要だと思う
大原委員	バイオの関係は施策の柱に書いてある通り。さらに進めてほしい	—
坂田委員	バイオは市で推し進めていくのか？	長岡には未活用の資源がたくさんある。 可能性が非常にある
坂田委員	ワークライフバランスはやったからと言って企業が持続可能になるわけではない	—
外山委員	施策の柱「官民連携による企業の DX 推進」と「地域企業や地場産業の持続的発展：多くの業種において後継者問題が顕在化」の具体的な施策として事業承継で経営者が変わるタイミングで DX 人材を登用するようなスキーム（DX による第 2 次創業）を検討してみてもどうか。	—

高野委員	KPI について、はたプラ賛同企業数だけでは測りきれない。 入札の加点になる等の理由で入っているところもある。 既に実施しているはたプラ賛同企業アンケート（回収率は低い「月平均所定外労働時間数」「年次有給休暇取得率」「管理職に占める女性割合」「男女育児休業取得率」「離職率」について毎年アンケートを実施）や商工会議所に協力してもらってアンケート取り、働き方改革の取り組みが進んでいるか実態を把握し、KPI に入れてはどうか。	はたプラ賛同企業が増えたところで、というのはある。 本当に働き方改革が進んでいるのかということ測れる KPI を。
坂田委員	人が企業に惹かれてくるケースは少なくなっている（テレワークの普及など） 長岡に住みたい理由を作る必要がある	—
外山委員	KPI に起業数とあるが、起業家を持続的に輩出するためには人材の裾野を広げることが肝要。そこで、育成すべき人材像を、起業家だけに絞るのではなく、イノベーション人材、DX 人材と幅広く捉えて育成するビジョンを掲げてはどうか。	—
高野委員	起業件数だけでなく、継続件数も重要では。 起業後の雇用をどうしていくか、どう回していくかを理解しないで起業している人がいる。立ち上げだけではなくて、その後の支援もすべき。	支援している。 あとはコミュニティ作成支援。 起業後の継続支援やりたいと思っている
大原委員	（高野委員に続いて） 商工会議所のミッションとしてもある。わかりやすいシステムを立ち上げられたら	学生起業家もでてきているがなかなか継続の部分は苦戦している 大事な視点だと思う
坂田委員	外国人の情報網はすごい。 あとは企業の福利厚生、給与がいいからやめない。これからは人手ではなく人材主義になる	—
高野委員	民間企業の外国人の受入れに対するマインドが追い付いていないと思う。 労働力確保のためだけに外国人を採用している企業の多くは、現場でコミュニケーションがうまく図れず、外国人はより良い職場環境を求めてすぐに辞めていく状況にある。	高度人材以外の技能実習に手を付けられていない 働き手としての外国人材増えてくると思っている
坂田委員	建設業は遅れている。連絡手段が FAX だとか。伸びしろがあるということでもある。	—
大原委員	・担い手を増やすというのは、新規参入を増やすのか後継者の育成を目指すのか ・担い手育成には意識改革も含まれているのか ・経営者というマインドを持った人を増やすのであれば経営改革というところをわかりやすく載せたほうがいいのでは。	・どちらも目指している。 現状 25%程度農家が減っている。 ・経営改革、経営者というマインドを持った人を増やしたいと思っている。
外山委員	ニュースで直播栽培に変えたという山口県の農家の事例を見た。製造プロセスを変えて法人化していた。担い手が少ないのであれば、製造プロセスの効率化の研究は行政も関わって進めてはどうか。研究開発をするラボ機能がないという話も聞く。	—

グループ3

委員名	内容	部局長の対応
ガーヴィー委員	平和の尊さの発信活動のほとんどの活動が市内で完結。誰に向けて発信する必要があるか。 沖縄の施設は、観光目的ではないだろうが来訪者多い。 核爆弾ではない通常の空襲を受けた世界の都市に向けた発信はどうか。ガザやシリアなど。長岡の復興や、花火の意味を知ってもらいと、将来、長岡に思い入れを持ってもらえるかもしれない。平和を実現できた実績をアピール。	—
山田光枝委員	長岡の平和への思い、2度の戦火に焼かれても復興した姿、それらを市民と一緒に発信していく取組みを根付かせたほうがいい。阪之上や希望が丘の取組が代表的だが、子どもたちが語り部になれるように。	—
山田光枝委員	・街歩きできるエリアがない。宿泊場所も少ない。来訪者の滞在時間を延ばせると、来訪者自身が情報発信者になり得る。 ・摂田屋も、摂田屋で終わるのではなく長岡市内全域の周遊観光につなげるとか（同じ醸造のまち三島など）。 ・デジタルスタンプラリーでもいいけれど、巡る仕掛けづくりを。	—
大島委員	三島、旧長岡と文化が違って酒の味も違う。だからこそ、それを繋げて楽しんでもらうような取組みが必要。	—
佐々木委員	観光のいいコンテンツが繋がっていないので、それを繋げて流れを作るところへの投資が必要。そして市民自らが語れるように浸透させなければ。	—
大島委員	観光情報が集約されていない。各地域で細切れ。観光ツアーを企画した際も、調べるのが大変だった。でも、各地域が地域内で完結する考えしかない、手が回らない実情もある。そこを市が支援して、イベント時の配布物として他地域を含むイベントカレンダーを用意するとか。日程が近ければ宿泊も見込まれる。入り口は例えば長岡駅として、出口（各地域への繋がり）を増やしてほしい。	—
山田光枝委員	交通インフラや宿泊体制も必要になる。摂田屋を巡りたくても宿泊場所が不便。いきなり公共交通を増便とか民間活用はハードルが高いので、ホテルのバスを連携させて運行するなど、活用できないか。	—
ガーヴィー委員	歴史文化の継承にカードも人気。造形大と協力して、ワークショップやカード作成。	—

大島委員	KPI、割合とかでいいのか。感じた、感じなかったで終わってしまう。やった回数や来た人数のほうがいい。	回数とか人数だと、役所の自己満足になる恐れがある →であれば、もっと結果を表すものに。理解した割合が大事なのではなく、その結果どうなったか。例えばふるさと納税リピーターは分かりやすくして良い。 →苦しい言い訳だが、これしか考え付かなかったのが正直なところ。 →～に取り組むという施策であれば、やった回数が指標でもよい。
山田光枝委員	アンバサダー制度とかで、市民をアンバサダーに認定するとか。市民全員が長岡の良さ、コンテンツを語れるように。	与板ではそういう取組みもある。なかなか横の連携が難しい。 →地域ごとの仲の良さの問題もあったり。
佐々木委員	観光客の統計データはあるか。 インバウンド対策考えるにも、相手国を意識したストーリーづくりが必要。	酒の陣などイベントごとのアンケートはあるが、全般的なものはない。今年から始める。観光客は、台湾、香港、中国（本土）の順で多い。
大島委員	旅行情報、観光情報はデータ整理をちゃんとやってほしい。地域ごとの小学生向け資料集をデータ化するだけでも違ってくるのでは。	おっしゃるように長岡市トータルのものはない。市史も合併以前のもの。それを今、AIに読み込ませてまとめられないか、試している。 小学生にわかるようなものが、誰にでもわかりやすくできていいですね
山田光枝委員	長岡ファンクラブのイメージは？	特にない。 強いて言えば、ふるさと納税やツアー宿泊の顧客情報を楽天と一緒に「見える化」して、（顧客）属性を分析したい。それをECに繋げていきたいが、金もかかるしどうやってやるか考えている
山田光枝委員	柏崎はファンクラブをがんばっている。メルマガだけでなく、会員カードがあったり。	—
佐々木委員	臼杵市（？）は、ふるさと納税したときのアピールがすごい。メルマガとか写真がどんどん送られてくる。もっている情報は活用しないと。	—

ガーヴィー 委員	SNS で情報発信する際の英語翻訳、Google 翻訳ではなくきちんと人の手を介して。 機械翻訳は簡単なミスをする。それが目に付くと、観光に力を入れていないと思われてしまう。ニュア ンスも正しく伝えられなくなって、せっかく作ったストーリーも伝わり方が変わってしまっ、（取組 みの）結果が変わってしまう。別の土地に行かれてしまう。	—
-------------	---	---

グループ 4

委員名	内容	部局長の対応
渡辺委員	政策の目指す姿に「アオーレ長岡」を核として」とあるが、アオーレだけが核ではない、それぞれの 地域に拠点がありそこを中心に広がっているということだと思う。	市民協働の象徴がアオーレ 市民協働センターには支所の相談もある、セ ンターで知恵を出して市民力を高めていっ た。 アオーレはハレの場。各地域の発信の場とし ても活用、アオーレ10年経ったためなく てもいいかご議論いただきたい。
田中委員	市民協働センターが核でいいのでは？ アオーレ長岡は一体感をそぐ	—
渡辺委員	これまではアオーレ中心だった、10年後いろいろな支所地域に派生していった。 アオーレから生まれ、支所地域にも派生していった。	—
アデリン委 員	各地域をあわせた新しい名前を作ったらどうか？ 全地域の市民が自分のこととして考えられると思う。	—
田中委員	町内会。一生懸命の人だけが大変、払わない人もいるのに 市が税金としてとって、配るとどうか	—
草間委員	マンションが1つの町内のような。 町内会が少なくなっている、 マンションなどきめ細やかに入ってくる人が必要（マンションの孤独死もある）	—
渡辺委員	町内会ありきで書かれているのが古い。 市民主体のまちづくりを進めるために、新しい地域コミュニティの姿を考えていく方がよい。従来の町 内会の形にこだわらず、市民主体のまちづくりを市民と行政が一緒に考えていく	市民主体のまちづくりを進めるために町内 会やコミュニティ推進組織のありかたを考 えて支援していくとかの方に言い方を変え ていきたい。

草間委員	行政がきめごとをしないと人が集まらない。 立場・身分を保証することが大事 市が町内会ありきで動いているが、今はできない町内も出てきている。 町内会を統合してはどうか。	—
渡辺委員	市民がこうしたいというのは市民が考え工夫しながらやる。どうしても行政が入らなければならない ところは一緒に考える。	—
田中委員	外国の方の住む場所が見つからない。 アパート見つからない。 外国の人も住みやすい政策が必要なのでは？	—
草間委員	身寄りのない高齢者もアパート見つからない	—
アデリン委員	家賃が高い。 空家を活用してシェアハウスがあるとありがたい。	—
田中委員	KPI に介護人材の就職人数いれてほしい 実際に人が増えたというのが大事で目標にいいのではないかな。	国の報酬が高くなれば人は集まるが、市の計画にそこまで入れるのは難しいということ で現在のK P I （ I C T ～ ） を入れた。
渡辺委員	高齢者が集える場所を増やすべき。 （おひとり様で不安） 高齢者の居場所づくり	講座で一緒に学ぶことで友達に。 その講座の情報をどう対象者へ届けるかが 課題。 身体・心の健康づくり、好きな 方を市民が選べるとよい。
アデリン委員	ベジタリアンは野菜中心の店がなくて大変。 日本語がわからず会社で何すればいいかわからず困る。友達もおらず辛い。	—
田中委員	今受け入れている外国の方はモチベーションが高いため乗り越えられる人が多いが、今後受入人数が 増えてくると変わると思う。 外国人受け入れるにあたりオリエンテーションを支援してほしい。 ごみの分別をする、夜中騒がないなど日本のルールがわからないから住民とトラブルになる。	—

草間委員	障害のある人が受けられる補助金や支援について知らない、どこに相談すればよいかわからない、受けられる支援を受けずに我慢している人をどうひきだすか、支援につなげるか。 発達障害により引きこもりにつながることもある。	基幹相談支援センターを中心に市民に周知していく。 長年障害に苦しんでいる方もいるため早い段階で相談につなげられるとよい。
田中委員	障害者家族への相談支援体制が書いてあってもいいのではないかな。	個別計画で施策はあるが、家族のことを触れるようにしていきたい。
アデリン委員	障害がある人からの相談に ICT を活用してみたら？外出が難しいから負担軽減になる。	—
田中委員	子どものときから健康寿命をのばす教育をしていく。 大人になって生活習慣が固定されてからだと直すのは難しい。	—
草間委員	大人になったら検診を受けることも子どものときから教育する。	—
草間委員	医療現場の基幹3病院を維持するために医療現場が大変なことが市民に伝わっていない。	福祉保健部長 市内に基幹3病院があり恵まれていること、医療従事者が大変な状況であることを市民に理解いただく。 書き方はどうするかは言えないが、周知・啓発は今後意識していきたい。
田中委員	医療者に対する尊敬の気持ちを。(受付・看護師) 医療崩壊になる前に市としても取り組みを	—
渡辺委員	「まちづくりに取り組むNPO 法人と協働し」 NPO 法人市民協働ネットワーク長岡とNPO 法人ながおか未来創造ネットワークに限定していないか？地域コミュニティ団体や市民活動団体を意識した書き方を。 みんなで作っていくという意識をいれる。	—
アデリン委員	家のまわりの修理のスキルを女性に教える。	性別による役割分担、アンコンシャスバイアス 男女関係なく仕事を決めない。
草間委員	男女平等を言い続けることが大事。 若手に言い続ける。	市民アンケートから若者ほど男女共同参画・女性活躍、人権問題への関心が高い

渡辺委員	女性活躍の言葉が違和感 家庭育児まだ活躍するの？ 女性が個人として幸せになるとかの方がよい。	長岡市の女性活躍は男女すべての人が活躍する社会を目指している。
渡辺委員	審議会の女性登用率ある？ 女性も発言ができる場があることが大事。	KPI にはないがこの下の計画にはある。

グループ5

委員名	内容	部局長の対応
山田修委員	全体として網羅的に記載されている。「変わるれ」というキーワードと「住み続けたい、選ばれたい」のつながりがもう少しほしい。 「住み続けたい」と選択する人生で最初のタイミングは18歳。市教委管轄の小中学生のことがメインとなっているが、高校生に対するアプローチの視点がほしい。 また、この会議には子育て支援や小中学校と大学の先生はいるが、高校の先生がいない。15～18歳の年代に自分の人生設計について考えさせるキャリア教育の観点があると、「住み続けたい、選ばれたい」という考えとのつながりが出てくると思う。	—
黒崎委員	長岡市にどのような大学、専門学校、就職先があるかというPRが足りていないのではないのかと思う。	これは大事になると思っている。ミライエでは、ティーンズカフェ、高校生企画講座や高校の探究学習などで高校生との関わりを持っている。これらを通して企業を知ってもらい機会となれればと思っている。 また、企業側も高校生とつながりたいという気持ちを持っている。
山田修委員	外部から高等学校教育を見ていると、「〇〇大学に〇人合格」というようなPRは目にするが、「こういう生徒育てたい」という話はなかなか伝わってこない。そういうところを切り崩してほしい。	—
黒崎委員	偏差値に関わらず、今はIQよりEQ。	—
石坂委員	高校生までは出会う大人の種類が少ない。その少ない出会いの中で、地元で働いてここで生きていこうとは思えない。	—
山田修委員	高校2～3年生の時期にPRパンフを配るとか、大学3年へのアウトリーチとか。そういうアプローチがあると、「住み続けたい、戻ってきたい」につながるのではないか。 その時期に自分の人生を真剣に考え選択することが「変わるれ」と「住み続けたい」がつながるのではないか。	県事業で高校生に企業紹介のパンフレットを配布している。長岡市はそれに+αで専門学校の紹介情報を追加して掲載している。 また、県が県外学生にダイレクトメールにてアプローチはしている。アプローチはしているがどう効かせるかが課題。

石坂委員	進路という切り口が違う。学校外で大人と出会う機会があれば良い。 例えばロボットなど、自分がやりたいことを突き詰めるときに必ずしも同学年である必要はない。多世代のサークルなどがあると良い。 ただ単にこういう会社があるよと紹介されても「へえ」と思うだけで終わるのではないかな。	ロボットの例が出たが、スポーツにも同じようなことが言えるのではないかと思った。スポーツの観点ではどうか？
石坂委員	難しい。例えばサッカーはピークは18歳で強豪の帝京長岡で活躍することを目指すことが多いなど世代で目指すところが少し異なる。	—
黒崎委員	縦割りの人間関係は大事だが、それを子どもが作ることはできない。	現在もロボットで多世代の取組はあるが、PRが足りていないのかと思う。 高校生は忙しい。様々な取組を考え、SNS発信など工夫をするもなかなか集まらない。
石坂委員	これから10年ありますから。10年後、こうなったら素敵だよねということを目指して。多年代にアクセスできる場所とかがあったら良い。	—
石坂委員	ふるさとに誇りをもつという「愛郷心」と共に認め合う「共生社会」が入っていて、ここだけ異質なものが繋がっているように思う。 (愛郷心も戻ってきたいという観点で重要であり、インクルーシブも発展途上で重要という認識ではある。)	隣人とともに誇り育つという意味合い。
山田修委員	特別支援教育が、2番目と3番目の政策のどちらにも含まれている。整理した方がよい。	—
黒崎委員	共生社会的な考え方は項目「一人ひとりを大切にしたい」に入るのではないかな。 ともに認め合うという意味合いで。	—
山田修委員	「保幼小中」とあるが「保幼小中高」にはならないかな。 義務教育と高等学校教育の管轄の違いがあるから難しいかな。繰り返しになるが、計画全体に高校生に対するアプローチの視点が弱いと感じる。	キャリア教育、米プラで情報発信している。 「あらゆる年代における学び・体験・交流の充実による人材育成」の中で施策の柱で含めていければよいのではないかな。 施策の柱「未来に向けた人づくりの推進」に高校生も生涯学習も含めている。 例えば「ふるさとに誇りを持ち、共に認め支え合う社会の実現に向けた教育の推進」の「・国籍など～」は上記の施策の柱より具体的に記載している。 それぞれ書いている深さが違っている。
黒崎委員	高校生の話はここミライエの話の中に入れるべきかな。	ミライエの対象は高校生だけではない。

山岸委員	個人的には若干過剰と思うくらい手厚い。 最近、現場で保護者からの相談を受ける際に感じることは、相談ではなく「すぐに回答がほしい」という人が多い。タイパ・コスパ重視、さらには子育てに対してメリットを求めるという方もいる。行政等が手をかけすぎることによってそういう人が増えるのではないかと感じることもある。 一方で、転勤で長岡に来た方からは、「長岡市での子育てが一番よかった」という声も聞こえる。ママ育て、パパ育てをしているように思う。最近では、育休とらない男性や飲み会に行く男性が女性から非難される場面があり、父親が愚痴を吐き出す場所がないと感じている。	—
黒崎委員	・コミセンでもママカフェ開催し、先輩ママが後輩ママに教えるということをやっている。 ・子育ての駅が子育てのトップにあって、各地域を回るような仕組みになればよい。	子育ての駅は各支所地域にも1か所ずつあって、子育てコンシェルジュがついている。
山田修委員	・施策の柱「郷土の歴史、自然、文化、産業等の学習と「米百俵」精神などの継承活用」について、「長岡学」はもう実施していないのか。 ・施策の柱「発達等配慮が必要な子どもと保護者への支援体制の充実」について「すこやかファイル」はもう活用していないのか。 ・長岡市立総合支援学校の記載があった方がいいのではないか。	「長岡学」、「すこやかファイル」は取組としてはある。一般市民がわからない単語は使わないことになっている。
山田修委員	「ながおか夢タクト」「こめぷら」などは入っているが。	政策企画課での調整が入るかもしれない。
黒崎委員	説明文末尾に（長岡学）として補足してはどうか。	一般市民が見て理解が進むかという観点（では不要）。
石坂委員	現状と課題の間にどういう問題があるかがわからない。 学ぶ本人に当事者意識がないことが教育がうまくいっていない原因に思う。	—
黒崎委員	地域社会こそ、学ぶ本人が当事者意識を身に付ける場だと思う。	—
石坂委員	子どもたちは当事者意識がない。自分が何をすればいいかということは大人から降ってくる、大人が用意するものだと思っている。サッカーを教えていてもどっちのゴールに入れればいいか聞いてくる子どももいるくらい。 そのまま大人になると、先ほどの山岸さんの話に出てきたような親になるのではないか。「当事者意識」をどこに入れ込むか難しいが言葉選びの問題だと思う。	現状が悪いと思ってやっていない。
山岸委員	「変わるれ」でいくんですよね、、、。	—
石坂委員	社会の変化もあるので、社会の変化に合わせて教育も変わらなければいけない、という意味では良いのではないのでしょうか。 A I も出てきているが、人間力が大事になってくる。	—
山田委員	「ダイナミックに変えていく」が教育にも一箇所くらいあるとよい。	—
黒崎委員	行政ができる範囲が限られているので難しいところもある。	—
石坂委員	行政と民間の得意なところを掛け合わせていけばいいのでは。長岡市は市民協働のまち。行政ができない学びは民間でカバーすればよいと思う。	—

黒崎委員	特別支援の子が増えている。もう一步踏み込んだ体制が必要。小さいときから適切な対応をすることで、成長に伴って普通学級に戻ることもある。	アウトリーチ事業を始めて体制を強化している。これまで支援が届かなかった子どもにも届くようになっている。
------	--	---

グループ6

委員名	内容	部局長の対応
勝身委員	・イノベーションという意味では、長岡市全体で考えて大きな循環にするべき。 ・上下水道施設について言うと、老朽化に伴い取り換える時期が来ていると思うが、長岡だけで考えるのではなく日本全体で考えていくべき。もっと広域的に捉えて取り組むべき。	生ごみバイオガス化による地域内完全循環の取り組みをもっと強化していこうと一歩踏み出したところ。商工部の取組みとして、酒造会社や米菓工場から出た米のとき汁を活用するなどダイナミックな動きはこれから出てくるかもしれないがまだ研究段階である
樋口委員	「災害や雪に強く安全安心に暮らせる」の中の7つの政策が並列なのか上下関係があるのかわからないが、「環境」を平常時のインフラとして考えると、インフラ整備や生活の安全安心というベーシックなものは先に記載してもよいのでは。それがあってはじめて災害などが起きたときも安全安心に暮らせる。一方で、重きを置く政策を上に記載するという考え方もできる。	—
原委員	「災害や雪に強く安全安心に暮らせる」というひとつの文章になっているので「安全安心＝災害や雪に強い」ということかと思った。安全安心の取り組みが災害や雪以外にもあることはよく読まないといけないので「雪に強く、」と文章を切るだけでも見た人の捉え方が変わるのでは。	—
樋口委員	年でできることと10年かかることで強弱がわかるといい。防災は最初の5年でやらなくてはならない、自動運転は5年ではできない。自動運転は10年でも実現できるかわからない中で、その間は何に取り組むのかということが、今の記載だとわかりにくい。まず（前期5年で）これをやって、次に（後期5年で）これをやるというような書き方や、自動運転は次の10年へ向けてこの10年でこれをやる、など整理して書いた方がよい。	—
原委員	「都市の中心性を高める・・・」の中で、中心市街地エリアを歩く人の数は賑わいの指標として理解できるが、「起業する人の数」は急にピンポイントで絞った指標で違和感を感じる。ミライエは産業創出とともに、人づくり・学びの場でもあるので、起業ばかりではなく、もっと広い意味でアクションを起こす人の数という指標にできるといい。	中心市街地の計画の指標をそのまま使ったようにも思えるので、もっと大きい動きをイノベーションという視点で整理する必要がある。

樋口委員	・公共交通について、新潟市では新潟交通の運転士が足りない中で、免許取得補助をやっている。越後交通の人手不足の状況は。 ・運転手を育てる姿勢が必要。今までと同じことではなく、公共交通を維持するなら、人材育成を行政が先導してやるくらいの姿勢が必要。 ・労働者としての外国人が多くなっているが多言語化がインフラ部分で足りていない。この5年10年でどこまでできるかはわからないが、インフラにも多言語対応が必要なのではないかな。公共交通がまず取組んでもいいのでは。 ・QRコードを載せておけば多言語対応できるので、まずは使える技術を使いながら、5年10年先を見てイノベーションを起こしてほしい。	人手不足の影響で減便にも繋がってる。運転手を募集するために体験会などの実施している。
勝身委員	公共交通のキャッシュレス化も必要	—
原委員	愛知県ではラグビーワールドカップを機に県が主導して公共交通が英語のアナウンスになった。強制ではないが仕方なくやるところがでてきて、結果的には良かったとなった。行政が動いてくれないと民間も動かない。何でもというわけにはいかないので取捨選択して。	—
樋口委員	越後交通で多言語アナウンスがあれば変わった感が出る。まずできるところから変えてみるというのも大事。	—
原委員	市から情報提供する側、例えば自主防災組織などへの情報発信、情報伝達と一緒に英語を流すと、見る人が増えるかもしれない。	ハザードマップやホームページなどは多言語化対応している
樋口委員	外国人にも意見を聞くといいのでは。市民アンケートは答えてないと思うので	—
勝身委員	安全工学的な観点で、これから多様化していく中で様々な人が長岡に来るようになると、性善説ではなく義務として、安全を義務化するように決めた方がいい。価値観は各国で異なるため日本人の感覚ではない	—
樋口委員	・コンパクトシティの推進については、まちなかとは旧長岡の中心市街地かと思うが、まちなか居住区域など合併地域含めて拠点がある。その合併地域の拠点のトーンが弱い感じする。その拠点とまちなかは公共交通を維持していくということを書いてはどうか。 ・拠点間をバスを使うと往復2,000円かかるので高く乗れない。拠点間は30～40分は移動できるが、乗る人の気持ちになるとバスは楽しいが高い。 ・拠点を大事にするのもいいが、料金が高いので計画に書くのはいいが乗る人のことも考えて。どこをイノベーションするのか。ウーバーという意見も出たが、瞬間的に多くの大学生は移動するときに運べるのか考えるとバスは必要	・中心市街地と支所の地域拠点のそれぞれが拠点。それを結んでいく。拠点化、そこは公共交通は維持していきたい ・集中している時間、通勤はバス。空いている時間は10人乗りやデマンドなど。ライドシェアは日本では法律上すぐにはできない。隣近所での乗り合いは、特に周辺の地域は共助でやっているところもある。 ・地域の中に元気な人がいれば、ボランティアでも経費払うとか地域交通としてやっていきたい想いはある。
勝身委員	体制を整備し、学生でもできるように、何かあったときに備えて保険かけるなどちゃんとした仕事にするべき	—

樋口委員	・再生可能エネルギーである生ごみからの発電量の目標値を、E Vバスで使う電気量を発電でまかなうような数値を設定するのはどうか。 ・カーボンニュートラルの発想で、越後交通が買っている電気と相殺できるとか、防災で災害時の環境部門と連携できるとか、電力をなんとかできるとか連携はできないか。 ・鳥獣被害の記載は座りが悪いが、例えばジビエとして産業にむすびつけているところもある。隊員数だけでなく、次につなげるような、一步二歩進める取組みを。	—
------	---	---

● 専門分野以外の意見

グループ1

委員名	内容	部局長の対応
広川委員	・第2回からは大幅に前進したと思う。作りとしてはまだまだな部分もある。別紙の「主な取り組み」と「K P I」がアンマッチである。 ・KPI の数が多すぎて検証ができなくなる可能性がある。例えば、基本目標ごとに主要（代表）KPI を設定することも必要だと思う。	—
近藤委員	市民アンケートについて、より多くの意見を集められると良いと思う。回収率が低すぎると思う。町内会が変革する必要がある。市民アンケートも町内会をベースにアンケートを取ってはどうか。トップダウンで動かないと市民の意識も変わらないと思う。	—
広川委員	アンケート結果について、総括（分析の概要）があるべき。	概要版には記載していた。
西片委員	長岡市の特徴が出るようなものになると良い。オブラートに包んでいるので難しいことも理解できる。	—

グループ2

委員名	内容	部局長の対応
高野委員 坂田委員	変わるれ宣言の訪日客を倍増。掛け声だけ。具体的ではない。今があつての倍増では。	—
坂田委員	住みたくなる場所。これからの時代、住む場所と働く場所が別々でもよくなる。企業も人が集まっているところに来る。そして企業も発展する。	—
高野委員	女性や若者が戻ってこないという課題があるにも関わらず縦割り。教育と就職が分断されている。子どもたちが地元企業を知らないまま市外に出て行ってしまっている。 中高生のキャリア教育をしているようだが総合学習などは学校側に主導権があり、企業側からの情報提供が足りない。企業側からどうアプローチをするのか考えないといけない。	小中学生はものづくりフェアでこんなものを作っているといいアピールはする。 高校生に長岡にいい企業があるというのが伝わっていないというのがある。

高野委員	課題に「アンコンシャスバイアス」とあるが、女性が戻ってこない原因はそこにある。 特に進学や就職における親世代の意識改革が重要だと思うので、親世代のマインドを変えるような取り組みができないか。	—
外山委員	大人の意識改革を進め、親だけでなく長岡市の大人全体で子どもにチャレンジしてもいいんだよという環境（心理的安全性が担保された環境）を整えることが重要では。	—
坂田委員	子供に親の影響を受けないような教育もありなのでは。	—
高野委員	高校生の就職先を決めるのに先生の意見が大きかったりもする 本来は自分が決めるべき。いろいろな情報を与えてあげるのが大事	—
高野委員	キャリア教育の充実というのであれば、KPIに「企業登録数」を追加したらどうか。 こめぷらを見てみたが、企業訪問・職業講和等聞けるメニューがあるが掲載件数が少なく、その先（地元企業を知ること）につながらないと思った。	—
高野委員	「職員のワークライフバランス」について、ハラスメント研修アンケートの回答のうち75%は安心して働けると回答しているが、25%違うと回答している。 安心して働けないという回答のうち約4割はハラスメント関係。 ワークライフバランスというと、育児・介護がメインになりがちだが、メニューの中に心身の健康もいれていただきたい。	—
外山委員	長岡市育ちの人視点になっている。 海外の人にも注目してもらって外国人材を入れていくのであれば、総合計画の英訳版を作ってもいいのでは。 あとは、自治体の力の入れているところをわかりやすくするために、該当するSDGsの目標を提示することも検討してはどうか。	—
坂田委員 高野委員	長岡市が何の分野をもって日本一、世界一になるのか。はっきりさせることで人が集まる 人口減少が共通の課題であることははっきりとしているのにそれが施策レベルになるとほとんど入っていない	—
大原委員	産学連携を一生懸命やっているように見えない	全国の地方都市と比べたら技大高専、チャレンジなことができるところがあると思っている 産業界とのつながりができていないが。

グループ3

委員名	内容	部局長の対応
ガーヴィー委員	アンケートの結果を全国と比較したらよい。 新潟市や東京都と比較できれば、もっと役に立つ。若者の考え方とか共通点を見出せる。全国的な悩みなのか、長岡特有なのか。	—
大島委員	今後、行政も金銭面や人的リソースを割けなくなってくる。そのとき、いろんな許可が柔軟に出してもらえたらよい。公園の使用許可とか。	支所で話が續かない？ →昔は支所で許可を出してもらえた案件も、今は「わからない」で終わってしまう。例えば大杉公園で前は宿泊できたが、今はできない。 →事情があるかもしれないので、支所長とかに相談してほしい
ガーヴィー委員	アメリカでは今、SOHO より北の、長岡くらいの規模のまちが、若者にとってクールな雰囲気として認識されている。 日本も、10 年後くらいには東京よりも地方のほうがクールになっているかもしれない。それを見据えて空家活用の施策もあったら。 ニューヨークも若い人に空家活用時のインセンティブを付けたら、ブルックリンに人が集まった。	権利関係が難しい場合もあるが、長岡でも空家は増えているので活用できたら。支所地域のほうが可能性あるのかな →長岡地域は家賃高いし、一軒貸しがあまりない。周辺地域だと、仏壇が残ってて貸せられないとかある →小国芸術村ありましたよね。そんな感じ？ →あれは時代に合わなかったのか、今は廃墟。栃尾で造形大の卒業生が活動している。これからそういうメッカになったら嬉しい

グループ4

委員名	内容	部局長の対応
渡辺委員	子育て対策は充実しているが、そこに至る結婚を促す様な出会いを増やすという項目がない。 出会いの場を増やすことが必要なのではないか。県の出会いサポートを活用する（入会金の補助など）のも手。 出会いのサポートは幸せへのひとつの手段。	—
草間委員	都会で実家に頼らず子育てをするのは大変。 子育てする年代になったら地元に戻るよう促すのも1つの策では？	—

田中委員	24時間夜間保育してほしい。赤字だが必要。多様性のある働き方できる。病児保育も。	企業が休める風土があるなど必要 病児保育ピークにあわせるのはできない。
草間委員	途中入園できる。兄弟で同じ園に入れる。	—
アデリン委員	マルチリンガルな社会（多言語）になる。幼稚園から英語を教える。 英語を教える園に補助金を出して全員が受けれるようにしてほしい。	—
渡辺委員	新しいNPO法人誕生1・2件、なくなるのも同じ件数。高齢化によりやめる団体が多い。 社会情勢にあわせた新しい法人もでき始めた。女性が作る団体が増えている 相談ができる団体がある長岡の環境はよい。 地域のボランティアの担い手がいらない。4・50代忙しくて時間ない。70代でも支える方にいる 65、70歳でも町内会民生委員が就労のためできなくなっている。	—
田中委員	基本目標の「子ども・若者が夢や希望をもって育つまち」成長する子どもたちにスポットがあたるのはよい	—

グループ5

委員名	内容	部局長の対応
石坂委員	「変わる イノベーション先進都市」で良いのでは。	—

グループ6

委員名	内容	部局長の対応
佐野委員	観光産業に稼ぐ力とあるが、観光に特化しているように見えるので、農業とかほかの分野もあってもいい。補助金に頼らずやっていけるような、自立した長岡になってほしい。	—
樋口委員	・孤独死、高齢者の単身死が増えている。団塊の世代の方でどちらかが先に亡くなると、単身高齢世帯が増える。単身の高齢者をどうサポートするか、この視点が足りないように思える。 ・隣同士が単身だったりすると助け合うことは無理。高齢単身者をどうサポートするかは、防災面でも日常の安心にもつながる。	—
原委員	ミライエを拠点にした若者の交流の促進とあるが、交流するといきなり長岡に住む人が増えるのか、そこに結びついているのかなと感じている。ゆくゆくそうなるのはわかるがもっと手前の部分で見るべきところがある。企業と学生が交流するといきなり長岡に愛着を持つのか、まず企業に持つのではないのか。ゴールがふっとんでいるので、もっと手前の目標がもういくつかあるのではないのか。	—

樋口委員	アンケート調査について、他県でもやってるなら見ておいた方がいい。長岡市が県より低い、地域別の分析があとで出ているがこの項目は載っていない。地域別で低いところがあるなら、確認しておくように。低い地域があれば、この分科会に関係するので、その人が高齢者なのか若い人なのか単身か家族かなど。インフラに関わるので見ておいてほしい。	—
------	--	---